

雲南圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
雲南-1	雲南の木増産プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・雲南圏域全体及び木材生産団地内の木材生産については今年度目標を達成できなかった。 ・提案型集約化施業の実施箇所、面積についてはおおむね目標を達成した。 ・木材生産量の拡大に向け素材生産業者をPJメンバーに加え、伐採方法も含めた増産に向け体制強化が進んだ。 ・森林組合では組織体制改善の協議が進み、林産班体制の強化が図られた。 ・高性能機械操作研修、伐採現場の現地研修等への参加により、効率的で現地に適した路網整備や作業システム等の改善のためのスキル向上が図られた。 	雲南圏域全体の木材生産量 (m ³)	72,000	54,568	76%
			(木材生産団地内)	56,200	45,996	82%
			うち雲南圏域3森林組合の木材生産量 (m ³)	48,000	29,679	62%
			提案型集約化施業の実施箇所数 (累計)	24	30	125%
			(実施面積) (ha)	375	334	89%
雲南-2	雲南の木活用促進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・原木集出荷体制の構築では、各市町に高機能ストックヤードの整備、トラックスケール等の導入など、原木検収の効率化や利用者の利便性が図られた。その結果、今年度の木質バイオマスの目標量を上回る収集量となった。A材の製材所へ直送量も増加している。 ・管内市町において地域材の利用促進に向けて関係者間で共通認識を深めている。 ・乾燥材製品を安定的に供給するため、木材乾燥技術の向上を目指した乾燥試験の取組や、乾燥JAS工場の認定に向けた講習会などの支援を進めた。 その結果、乾燥機を導入した2社において、製材品の出荷量が増加し、1社が乾燥JAS認定を取得した。 ・消費税駆け込み需要の反動と、長く続いた燃油の高騰により、古い乾燥機を持つ製材所では、自社での乾燥コストが割高となり自社乾燥を控えたため出荷量が大きく落ち込んだ。 ・各製材所では乾燥機の必要性を強く認識しているが、高額なため、製材所間で連携し、共同購入・共同管理に向けた検討会を開催した。 12月には茨城県の木材乾燥機メーカを視察するなど人工乾燥材の共同出荷体制の構築に向けた取組が加速した。 ・地域材を活用した新商品(高機能性壁板”鎧壁”)を販売開始した。 ・温浴施設など5施設に木質ボイラーの導入が進み、各ストックヤードから合計2,000tを超えるチップ燃料を供給した。 	製材所への原木直送量 (m ³)	4,825	4,339	90%
			乾燥材製品出荷量 (m ³)	741	362	49%
			木質バイオマスの熱エネルギー利用量 (t)	1,549	2,054	133%
雲南-3	奥出雲キノコの里づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・菌床シイタケ「雲太1号」の栽培技術向上のため、新たな培養方法の確立を目指している。 ・高質スーパー「紀ノ国屋」と山口県トップシェア「丸久」に対して販売プロモーションを実施した。 島根の観光とタイアップした販売促進(知事・しまねっこ)により、売上げが増加。また「奥出雲椎茸」及び「美味しまね認証」のPR活動も実施出来た。 ・直売所では試食販売の強化により売上アップに繋がった。 ・新品種キノコの栽培試験を実施し、「クローワピタケ」と「ハクレイタケ」は、安定収量確保に向けた培地候補を発見した。 ・飯石森林組合の新品種菌床シイタケ(ぶりっと)は、パイヤーの評価が高く、松江の小売店と売買契約を締結し、販路拡大に繋がった。 ・飯石森林組合の「ぶりっと」の増産に向けた体制整備が間に合わず、需要と生産にギャップが生まれている。 	主要菌床キノコ及び加工品売上高 (百万円)	1,131	1,018	90%